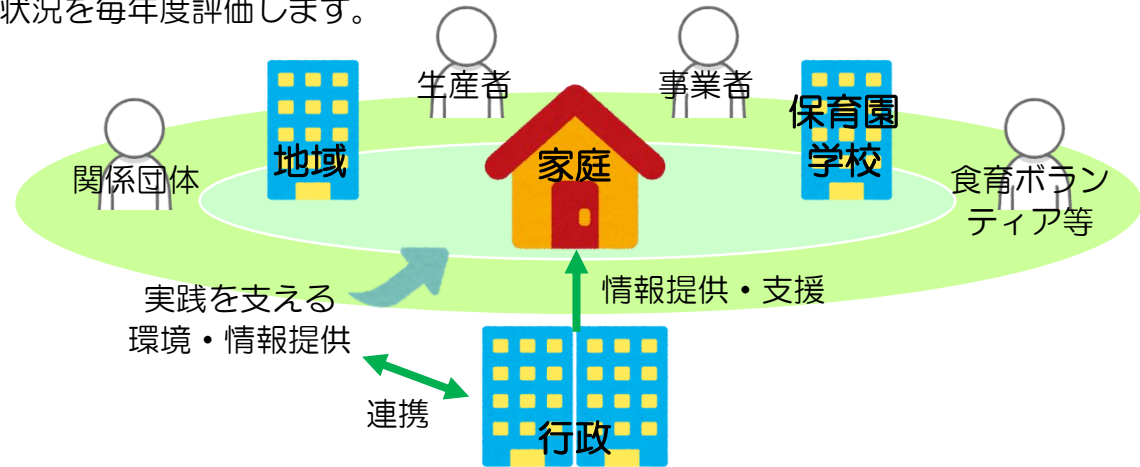


# 7 推進体制

本計画の推進にあたって、家庭、保育園・学校、生産者・事業者、地域の団体等、町内の関係機関と連携して横断的な施策に取り組むとともに、他の行政機関とも連携して、多くの方の意見を取り入れながら食育の推進に努めます。また、本計画に定めた各種事業は、その進捗状況を毎年度評価します。



## ライフステージで大切にしたい食育の取り組み



## 第2次智頭町食育推進計画

発行日 令和4年4月

発行 智頭町 福祉課

〒689-1402

鳥取県八頭郡智頭町大字智頭 1875 番地

電話 0858-75-4101 FAX 0858-75-4110

# 第2次智頭町食育推進計画

令和4年度～令和8年度

概要版



智頭町  
令和4年4月



# 1 計画策定の背景



「食」は私たちが健康で豊かな生活を送るうえで欠くことのできないものであり、生活の中における重要な役割を担っています。また、地域で長い年月をかけて築き上げてきた食文化にふれたり、安心・安全な地場産物や地産地消について学ぶことは、豊かな人間性を育むためにもとても重要です。しかし、少子高齢化、生活環境の多様化などライフスタイルの変化により、食を取り巻く状況は大きく変化し、生活習慣や食習慣の乱れなどに起因する肥満、高血圧、糖尿病といった生活習慣病の増加など、依然として多くの課題が見られます。

こうした状況を踏まえ、智頭町では平成29年3月に「智頭町食育推進計画」を策定し、健全な食生活の実現と長年培ってきた食文化を大切に、健やかで心豊かな暮らしの実現を図るよう、町民の皆様と一緒に取り組みを進めてまいりました。

家庭はもとより、保育園、学校、地域、生産者など食に関わるあらゆる関係機関・団体等が連携し、望ましい食習慣の形成や農産物等の生産・食品の製造や安全性に対する正しい理解、環境への配慮、食文化の継承などの施策を総合的かつ計画的に推進します。

# 2 計画の期間

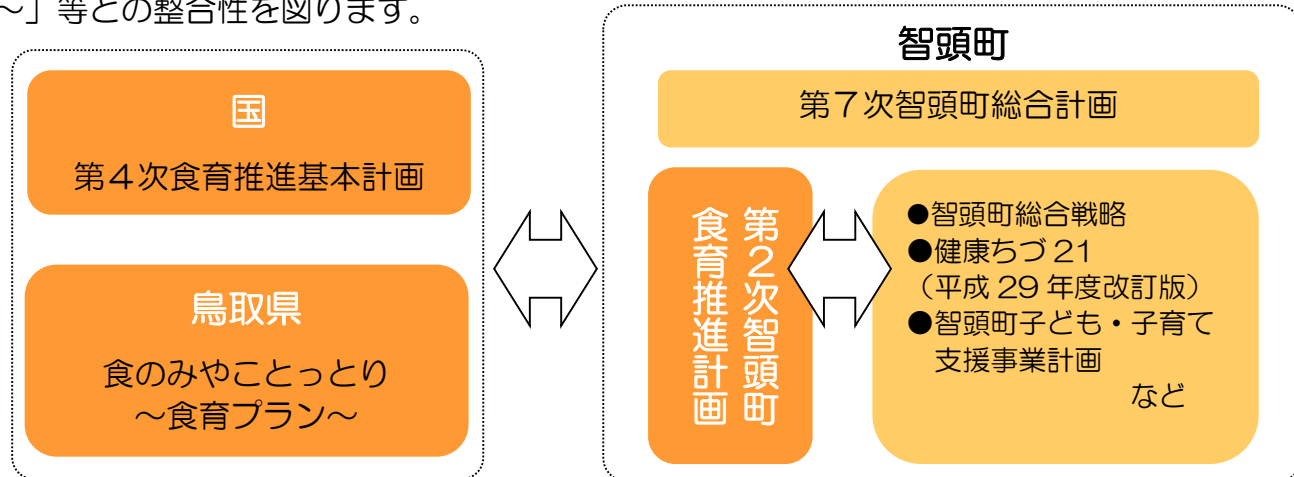


この計画の期間は、令和4年度から令和8年度までの5年間とします。なお、計画の期間中でも状況に変化があった場合は、必要に応じて目標値等の見直しを行います。その際には、国及び県の食育推進基本計画を反映させることとします。

# 3 計画の位置づけ



本計画は「第7次智頭町総合計画」を上位計画とし、「智頭町総合戦略」、「健康ちづ21（平成29年度改訂版）」、「智頭町子ども・子育て支援事業計画」など関連する計画との連動を図るとともに、国の「第4次食育推進基本計画」及び鳥取県の「食のみやことっとり～食育プラン～」等との整合性を図ります。



# 4 基本理念と基本方針



「食育」は身体の健康や心の豊かさを育てるために重要なことであり、第1次計画の基本理念を引き継ぎ、未来を担う子どもたちが、健全な心と身体を培うとともに、すべての町民が心身の健康を確保し、生涯にわたって生き生きと笑顔で暮らすことができるよう、「ちいきで育む豊かな食 づっと健康 笑顔のまち」を目指して食育を進めます。



# 5 重点施策



生涯をとおして健全な食生活を実践し、豊かな人間性を育むためには、子どもの頃からの食育が重要です。子どもの基本的な生活習慣は、家庭、保育所や学校で身につけることになるため、各々重要な役割を担っています。

また、子どもだけでなく、高齢期までのライフステージに応じた食育を推進するために、3つの重点目標を設定し、計画を推進します。

食と健康に関心をもち  
食に関する正しい知識を習得する

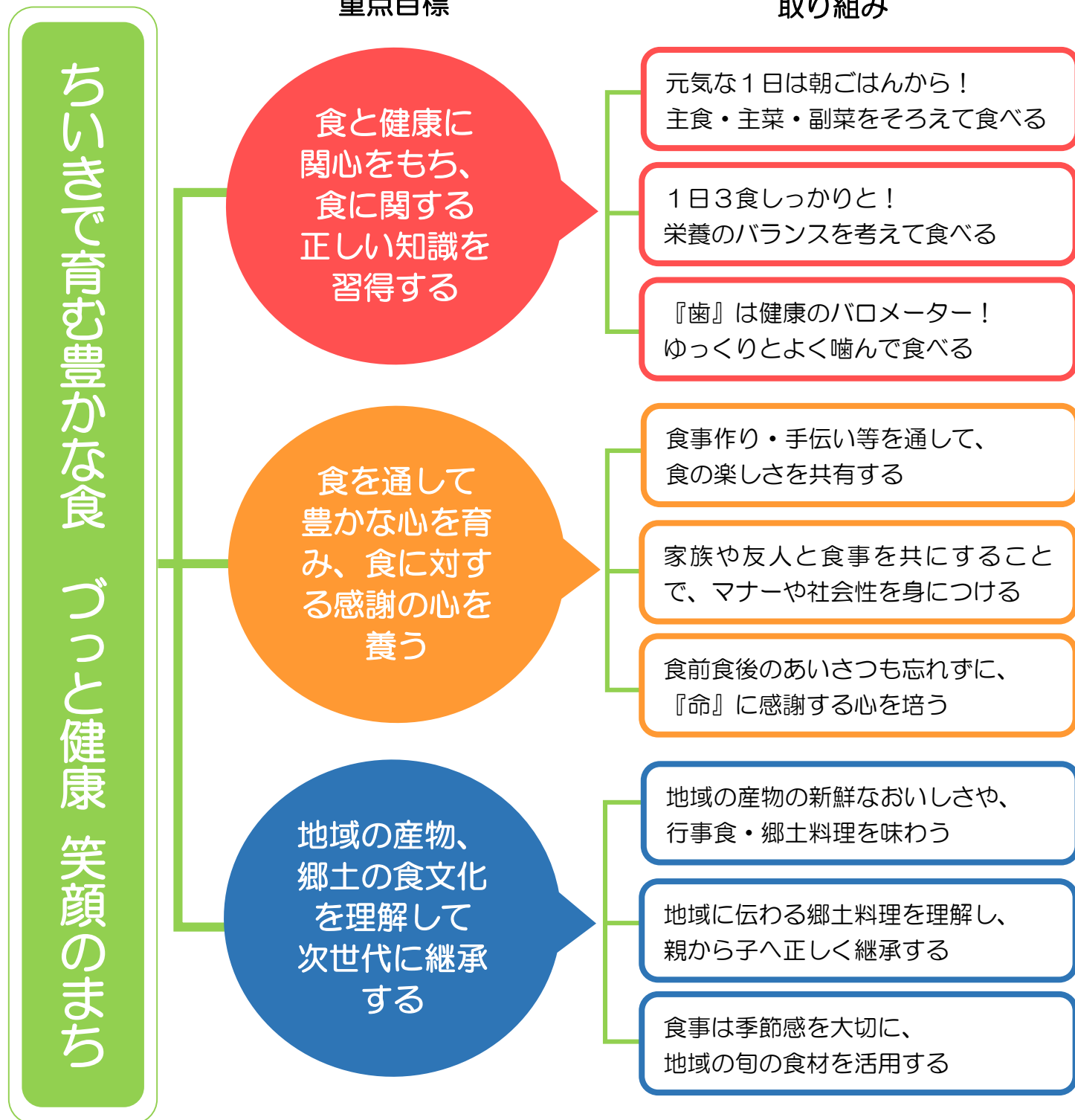
食を通して豊かな心を育み、  
食に対する感謝の心を養う

地域の産物、郷土の食文化を  
理解して次世代に継承する

# 6 数値目標と推進施策



食育を推進するためには、家庭、保育園・学校、生産者・事業者、地域、行政が一体となって取り組む必要があります。本計画では、以下の体系で食育を推進します。



重点目標	項目	対象	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和8年度)	
食と健康に関心をもち、食に関する正しい知識を習得する	元気な1日は朝ごはんから！ 主食・主菜・副菜をそろえて食べる	朝食欠食率の減少	児童(小学校5年生)	4.7%	0%
			生徒(中学校2年生)	14.0%	0%
			20~59歳男性	23.2%	10%以下
	1日1回以上 主食・主菜・副菜をそろえて食べる人の増加		幼児(5歳児)	93.3%	100%
			児童(小学校5年生)	83.7%	
			生徒(中学校2年生)	83.7%	
			成人	90.4%	
	1日3食しっかりと！ 栄養のバランスを考えて食べる	緑黄色野菜を食べる人の増加	幼児(5歳児)	80.0%	80%以上
			児童(小学校5年生)	62.8%	
			生徒(中学校2年生)	76.7%	
		野菜を両手一杯分食べる人の増加	成人	27.9%	50%以上
			20歳代男性	11.2%	20%以上
成人(男性)			20.5%	50%以上	
成人(女性)	27.5%				
『歯』は健康のバロメーター！ ゆっくりとよく噛んで食べる	食事をよく噛んで味わって食べる人の増加	幼児(5歳児)	23.3%	50%以上	
		児童(小学校5年生)	32.6%		
		生徒(中学校2年生)	27.9%		
	仕上げ磨きをする人の増加	成人	21.4%	100%	
		幼児(5歳児)	100%		
		児童(小学校5年生)	62.8%		
朝晩の歯磨きをする人の増加		生徒(中学校2年生)	81.4%	100%	
		成人	66.0%		
		成人	66.0%		80%以上

### 朝食の摂取と食事バランスについて

主食・主菜・副菜を揃えて食べるなど、食事内容についての普及活動を行います。また、20~59歳代の男性については欠食率が増加しており、働き世代への啓発を行います。

### 野菜の摂取について

子どもの野菜摂取率については改善が見られず、元気な身体をつくるために欠かせない野菜の大切さと、手軽に摂取できる方法など家庭へ啓発します。

- 告知端末や広報紙、マチコミ等で朝食や野菜摂取の増加を目指してレシピ等を配信する

### 歯の健康について

1口30回を目安によく噛んで食べる者が少なく、いずれの年代においても、よく噛んで食べることの大切さを啓発します。

- 保育園や学校の給食で、毎月「8」のつく日にカミカミ給食を提供する
- 告知端末や広報紙、マチコミ等でよく噛む人の増加を目指してレシピ等を配信する

### 食に関する知識について

健康的な食生活を実践する上で欠かせない栄養表示について、活用方法等を啓発します。



重点目標		項目	対象	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和8年度)
食を通して豊かな心を育み、食に対する豊かな心を養う	食事作り・手伝い等を通して、食の楽しさを共有する	食事を作ったり手伝ったりする人の増加	幼児（5歳児）	-	10%以上
			児童（小学校5年生）	16.3%	30%以上
			生徒（中学校2年生）	4.7%	20%以上
		家庭で食事を作る人の増加	成人（男性）	21.4%	30%以上
			成人（女性）	80.6%	85%以上
			成人	-	-
	家族や友人と食事を共にすることで、マナーや社会性を身につける	家族そろって夕食を食べる人の増加	幼児（5歳児）	100%	100%
			児童（小学校5年生）	77.0%	90%以上
			生徒（中学校2年生）	72.1%	
			成人	67.4%	75%以上
		食事を家族や友人と楽しく囲む人の増加	幼児（5歳児）	63.3%	80%以上
			児童（小学校5年生）	67.4%	
			生徒（中学校2年生）	53.5%	65%以上
			成人	50.5%	60%以上
			成人	-	-
	食前食後のあいさつも忘れずに、『命』に感謝する心を培う	食事のあいさつをする人の増加	幼児（5歳児）	90.0%	100%
			児童（小学校5年生）	83.7%	
			生徒（中学校2年生）	88.4%	
成人			51.5%	65%以上	
食事を残さずに食べる人の増加		幼児（5歳児）	-	90%以上	
		児童（小学校5年生）	-		
		生徒（中学校2年生）	-		
成人	-	85%以上			

### 食事作りと共食について

食事作りを通じた食育の実践については、子どもの頃からの習慣も重要となるため、家族みんなで食事作りを推進できるような取り組みを広げていきます。

- ・ノーメディアデー、メディアコントロールWeekと食育の日を活用した取り組みの推進
- ・こどもおやつ作り教室や子ども食堂での食事作りと共食の推進

### 食事のあいさつの実践について

食事のあいさつは食材や調理従事者への感謝の心を養うために大切なことであり、すべての世代で実践されることが望ましいため、教育現場だけでなく家庭でも実践されるように働きかけます。

### ジビエの利用促進について

学校給食だけでなく、保育園の給食でも提供し、食材の命に触れる教育を行います。

### 食品ロス削減の取り組みについて

食べ残しを減らす取り組みや、町内のスーパー、小売店と連携して「てまえどり」等の食品ロス削減の取り組みを推進します。家庭でも食品ロス削減の取り組みが進むように広報紙や告知端末等で周知、啓発を行います。

重点目標		項目	対象	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和8年度)	
食を通して豊かな心を育み、食に対する豊かな心を養	地域の産物の新鮮なおいしさや、行事食・郷土料理を味わう	地域の郷土料理を知っている人の増加	児童（小学校5年生）	49.8%	60%以上	
			生徒（中学校2年生）	57.2%	70%以上	
			成人（20～40歳代）	53.6%	65%以上	
			成人（50～70歳代）	53.2%		
		地域の郷土料理を食べたことがある人の増加	児童（小学校5年生）	-	30%以上	
			生徒（中学校2年生）	-	50%以上	
	成人（20～40歳代）		96.7%	100%		
	成人（50～70歳代）		93.3%			
	地域に伝わる郷土料理を理解し、親から子へ正しく継承する	地域の郷土料理を作ったことがある人の増加	成人（20～40歳代）	15.1%	25%以上	
			成人（50～70歳代）	32.8%	45%以上	
		食事は季節感を大切に、地域の旬の食材を活用する	地域の特産品を知っている人の増加	児童（小学校5年生）	-	60%以上
				生徒（中学校2年生）	-	70%以上
地元の産物を活用する人の増加			成人（20歳以上）	54.0%	65%以上	
			成人（20歳以上）	68.5%	75%以上	

### 地産地消の推進について

地元の産物を活用する者が少なく、地産地消についての意識づけが必要です。また、智頭町の特産品については町内外のイベントや返礼品等でPRをしていますが、地域内消費については取り組みが少なく、町民に知ってもらい、消費してもらう取り組みが必要です。

- ・保育園や学校の給食に町内産の食材や特産品を取り入れる
- ・広報紙や告知端末で紹介し、イベント等のPRを行う
- ・ジビエ料理のレシピ集を作成し、町民の利用促進を図る

### 郷土料理、地域の食文化について

地域の食文化や郷土料理が、大人から子どもに、そのまた子どもに引き継がれていくように、幅広い世代への働きかけを行います。

- ・子ども食堂や、ミニデイ・森のミニデイ等の通いの場等で行事食や伝統料理を提供する
- ・毎月19日の食育の日に、小中学校で県内食材を使った献立や郷土料理を提供する
- ・告知端末や広報紙、マチコミ等を利用して、町内・県内の特産品を活用した料理や、郷土料理のレシピを配信する

